

評価対象	評価項目	具体的数値項目 ※ ■印は教職員, ●印は生徒, ★印は保護者
1. 魅力ある学校づくり	(1) 地域の教育力を生かした魅力ある学校づくりと運営が適切に図られているか。	■情報モラル講演会や交通安全教室、職場見学や体験など、地域の方や外部講師などを授業等に活用し、地域とともにある魅力ある学校づくりが推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●情報モラル講演会や交通安全教室、職場見学や体験など、地域の方や外部講師などが授業等に関わってくれることがあると答える生徒が80%以上である。 ★学校は、授業等の充実のため、情報モラル講演会や交通安全教室、職場見学や体験など、地域の方や外部講師などの人材を効果的に活用していると答える保護者が80%以上である。
	(2) 郷土愛の醸成が適切に図られているか。	■「総合的な学習の時間」を中心に、郷土の魅力である日本遺産「里沼」を活用した系統的な学習が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●「総合的な学習の時間」では、「里沼」やそれを発展させた内容について学習をしていると答える生徒が80%以上である。 ★学校は、「総合的な学習の時間」などを中心に、「里沼」やそれを発展させた内容について学習を行っているという答える保護者が80%以上である。
2. 豊かな心の育成	(1) 自他の命を大切に、自己指導能力を高める教育の推進が適切に図られているか。	■SOSの出し方に関する授業やゲートキーパー講座などを通して、自己指導能力を高めるとともに、互いを尊重し合い、自他の命を大切に教育が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●SOSの出し方に関する授業やゲートキーパー講座などを通して、自他の命を大切にすることについて考えたという答える生徒が80%以上である。 ★学校は、SOSの出し方に関する授業やゲートキーパー講座などを通して、生徒に自他の命を大切にすることについて教育を行っているという答える保護者が80%以上である。
	(2) 人権尊重の態度を育てる教育の推進が適切に図られているか。	■正しい人権感覚を身に付け、人権を尊重する生徒の育成が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●互いを尊重し、楽しい学校生活を送れていると答える生徒が80%以上である。 ★お父さんは、友だちとよい人間関係を築けており、楽しく学校生活を送れていると答える保護者が80%以上である。
	(3) 積極的な生徒指導の推進が適切に図られているか。	■自己有用感を育み、居場所のある学校、学級づくりが推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●先生は、いじめがないように取り組んでいると答える生徒が100%である。 ★学校は、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めていると答える保護者が100%である。
	(4) 道徳教育の推進が適切に図られているか。	■生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てようとしている教職員が80%以上である。
	(5) 情報教育の推進が適切に図られているか。	■ICT教育と両輪となる情報モラル教育が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●授業や家庭学習で、タブレットなどを使って学習をすることがあり、情報モラルについても学習をしていると答える生徒が80%以上である。 ★お父さんは、家庭学習でタブレット等を使うことがあると答える保護者が80%以上である。
3. 確かな学力の向上	(1) 「言語能力」の育成が適切に図られているか。	■学習の基盤となる言葉の理解や言葉による対話、表現などを通して、言語能力の育成が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●授業中、自分で考えたことを伝えたり、友達と話し合いをしたりしていると答える生徒が80%以上である。 ★学校は、自分の考えをまとめたり、考えたことを相手に伝えたりするような授業が展開されていると答える保護者が80%以上である。
	(2) 確かな学力の向上につながる授業改善及び指導と評価の一体化が適切に図られているか。	■「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と、指導と評価の一体化の充実を組織的に推進している教職員が80%以上である。 ●授業が「分かる」「楽しい」と答える生徒が80%以上である。 ★お父さんは、「授業が分かりやすい」、「授業が楽しい」と感じていると答える保護者が80%以上である。
	(3) 家庭学習の充実が適切に図られているか。	■自ら課題を見つけ、自らの学びをマネジメントする力の育成に向け、授業と家庭学習をつなぎ、家庭と連携した家庭学習の充実が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●家庭で予習や復習などの家庭学習を週平均して1日1時間以上取り組んでいる生徒が80%以上である。 ★お父さんは、自主的に家庭学習をする習慣が身に付いていると答える保護者が80%以上である。
	(4) 読書好きな生徒の育成が適切に図られているか。	■読書に親しむ態度を育て、読書習慣の定着が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●学校の図書館は、本を読んだり、借りたりする環境が整っていると答える生徒が80%以上である。 ★お父さんは、家庭で読書をするということがあると答える保護者が80%以上である。
	(5) 英語教育の推進が適切に図られているか。	■実践的に英語でコミュニケーションを図る力を育成するために、小・中学校間の円滑な接続を図り、「館林版『英語村』プロジェクト」を進展させ、英語教育の充実が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●英語の授業では、ALTの授業等でコミュニケーションをとる活動を行っているという答える生徒が80%以上である。
上 4 食育の推進 食育の推進 心身の健康 体力・運動能力の向上	(1) 心身の健康の保持増進と健全な発育発達が適切に図られているか。	■現代的な健康課題を踏まえ、生徒が生涯にわたって心身ともに健康な生活を送ることができるよう、養護教諭等を中心とした組織的な指導・支援が推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(2) 生徒が運動の楽しさや喜びを実感できる取組が適切に図られているか。	■生徒が運動の楽しさや喜びを味わいながら基礎体力の向上と基礎技能の定着を図ることができる授業改善や部活動改善での体力向上に向けた取組が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●保健体育の授業や部活動などの運動に、積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ★学校は、保健体育の授業や部活動などを通してお父さんが進んで運動に取り組む対策を行っているという答える保護者が80%以上である。
	(3) 学校の教育活動全体を通じた食に関する指導の充実と学校・家庭・地域が連携した食育の推進が適切に図られているか。	■教育活動全体を通して、食の大切さや食文化などについての理解を深める教育を推進する。また、保護者や地域の方と連携して食への関心を高め、望ましい食習慣づくりが推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●朝食をしっかりと食べるなど、健康的な食生活を送っている生徒が80%以上である。 ★学校は、家庭科の授業や給食指導を通して、食に対する指導を効果的に行っているという答える保護者が80%以上である。

5 個性を伸ばす教育の 推進	(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■チームとしての校内支援体制を整え、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒も含め、個別の教育支援計画、指導計画等の活用を通して関係機関や保護者との連携を図り、個に応じた適切な支援の充実が推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(2) キャリア教育の推進が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■一人一人の社会的・職業的自立に向け、望ましい職業観や基盤となる必要な能力・態度を育てる教育が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●将来の夢や希望について考えていると答える生徒が80%以上である。 ★学校は進路学習を通して、お子さんに将来の夢や希望について考えさせる指導を行っているという答える保護者が80%以上である。
6 学校保健・安全の充実	(1) 学校保健の充実が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■学校保健活動の組織的、計画的、継続的な取組及び教育活動全体で健康教育への取組が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●感染症拡大防止のために、手洗い等を意識して生活している生徒が80%以上である。 ★学校は、健康診断の結果を家庭と共有し、お子さんの健康の保持増進に努めるとともに、感染予防対策等を適切に行っていると答える保護者が80%以上である。
	(2) 学校安全の充実が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の危機回避能力を高め、自ら安全に行動できる資質・能力を育成する安全教育、地域や家庭、関係機関と連携した共感力を高める防災教育が推進されていると考える教職員が80%以上である。 ●交通ルールを守り安全に通学する方法や、学校や地域で災害（地震・火事・水害等）が起きたときや不審者が侵入してきたときにどのように行動すればよいか学校で学習をしている生徒が80%以上である。 ★学校は交通安全について指導を行ったり、保護者への協力を求めたりするとともに、火災や自然災害、不審者対策のため、避難訓練等を実施していると答える保護者が80%以上である。
7 業務改善等	(1) 業務改善が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■長時間勤務の是正に向けた、勤務時間の適正な記録の徹底と廃止・縮小・ICT化の視点での業務改善が推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(2) メンタルヘルスキアの推進が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■教職員の業務の進捗状況や健康状態等を把握し、心理的安全性が確保されるメンタルヘルスキアが推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(3) 人事評価制度の活用が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■教職員の職能成長や学校組織の活性化、適材適所の登用を目的とした人事評価制度が推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(4) 服務規律の徹底が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■服務規律の確保に向けた自己点検・評価及び研修が推進されていると考える教職員が100%以上である。
	(5) 適正な部活動の運営が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■適正な部活動の運営に関する方針等に基づいた活動時間や休業日の設定等が推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(6) 調和を大切に、ともに伸びていく職員組織の構築が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■職場はコミュニケーションが取りやすい環境であり、個々の職員の特性や能力を理解した組織構造の構築が推進されていると考える教職員が80%以上である。
	(7) 「報・連・相」を徹底し、チームワークのある組織運営が適切に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■職場は「報・連・相」が徹底され、スムーズな組織運営が推進されていると考える教職員が80%以上である。